

# Weekly Report

ROTARY CLUB OF KONAN

2022-23



創立 / 1965年6月25日  
 例会日 / 毎週木曜日 PM12:30~  
 会場 / 江南商工会館1F 大ホール  
 江南市古知野町小金1-2  
 0587-54-8132

事務局 / 江南商工会館 別館1F  
 TEL / 0587-55-6554  
 FAX / 0587-59-7720  
 URL / <http://www.konan-rc.com/>  
 Mail / [kouanarc@beach.ocn.ne.jp](mailto:kouanarc@beach.ocn.ne.jp)  
 会長 / 富永典夫 幹事 / 岩田進市 会報委員長 / 北畑祐三



## 2022年(令和4年) 10月20日(木) くもり 第2742回(当年度第11回)例会

点 鐘  
 司 会

ロータリーソング斉唱  
 四つのテスト唱和

会長 富永 典夫君  
 SAA 片平 博己君  
 「それでこそロータリー」  
 杉浦 賢二君

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

会長挨拶



会長 富永 典夫君

先週、ロータリー女性の集いパート1に参加してきました。江南ロータリークラブ唯一の女性会員の伊藤さんも参加されました。

男女ほぼ同数の総勢110名が集まりました。以前、地区の会員増強委員会委員長の石井委員長もおっしゃっていましたが、当地区の女性会員は世界のロータリークラブでは25%が女性ですが、日本ではわずかに7.3%。わが地区は全国平均にも及ばず5.7%(8月末日現在)です。

毎年のように地区目標として女性会員増強が掲げられ、ガバナー主導の座談会や集いも開かれましたが、女性会員を増強するには継続事業を立ち上げなければ

との一念での開催で、卓話には、ロータリーの友編集長の野崎恭子さん、尾西RCの平松清美さん、名古屋名東RCの藤野直子さんの3人の女性が自らの体験を語り、ロータリークラブは女性を必要としており、女性にとっても魅力あるところだと語っており、皆さんの熱意に圧倒されました。未だに女性の入会を拒否するクラブもございますが、当クラブでは大歓迎です。クラブの将来のためにも一人でも多くの女性会員に入会して頂けるように頑張りましょう。

話しは変わりますが、10/24は世界ポリオデーであります。撲滅まであと一歩であり、我々には遠いところの話のように見えますが、日本では生後3~12ヶ月までに3回のポリオワクチン接種(4種混合)が義務化され免疫維持がなされております。毎年新生児にポリオワクチンを投与しているからポリオの感染や拡大、発症が防がれておりますが感染の可能性は依然あります。

日本政府の国内ポリオワクチン投与費用は毎年100億円です。先進国では国が積極的に防いでおりますが色々な事情でワクチンが受けられない子供たちがおります。我々の寄付がこうした国の子供たちの支援に使われております。世界からポリオが根絶されない限り毎年3億~4億人の子供にワクチン接種を続ける必要があります。今が最も資金な時期であります。今後も皆様のご協力をお願いします。

幹事報告 -別紙-

幹事 岩田 進市君

出席報告

委員 木本 寛君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
46名	34名	11名	79.06%

ニコボックス

委員 木本 寛君

○会員卓話片平博己君『『ちよにやちよに』とロータリークラブ』本日の卓話、よろしくごお願い致します。

富永 典夫、南村 朋幸、岩田 進市、駒田 洋平各君  
 ○本日卓話させていただきます。

片平 博己君

○結婚記念日ありがとうございました。

早川 一三君

○会員卓話 片平博己君「『ちよにやちよに』とロータリークラブ」本日の卓話、よろしくお願ひ致します。

伊藤 鶴吉、倉知 正憲、松岡 一成、庄田 元久、古田 嘉且、杉浦 賢二、岩田 静夫、枚本 哲一、長瀬 晴義、中村 耕司、富田 清孝、加藤 義晴

各君

卓話 「『ちよにやちよに』とロータリークラブ」



片平 博己君

コロナ禍のここ数年、不自由なことが多いのですが、それでも、夜お酒を飲みに行ったりする機会が減ったためか、読書、オンラインや小規模のセミナーなどに行く機会が増え、あくまで趣味の範囲ではありますが、多くの学びや気づきがありました。

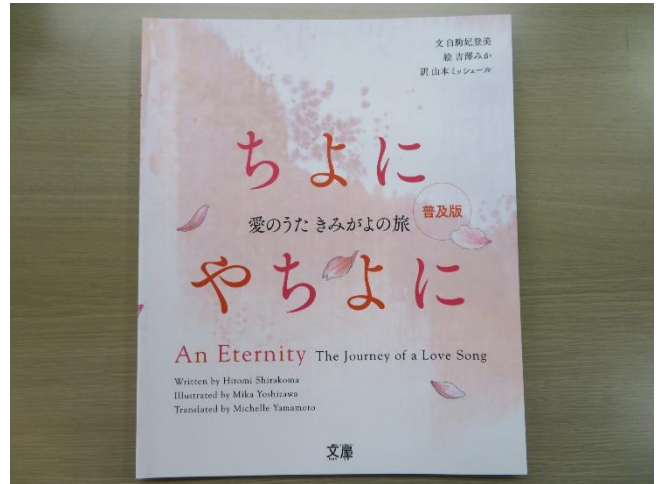
小難しい話や、偉そうに知ったかぶりをしたり、偏った考え方を強調するつもりは全くありません。まあ、そういう考え方もあるのだなと捉えつつ、一部でも皆さんのお考えの一つに加えていただければ幸いです。

10年ほど前にある雑誌で白駒妃登美さんと言う方を知りました。博多在住の「博多の歴女」と呼ばれる方で、大病をきっかけに命と向き合い、日本史を通して「志」「天命」「報恩感謝」について幅広く講演活動をされ、著書もたくさんあります。私は、この方が好きで、毎月のオンラインセミナーをはじめ、コロナ前は台湾、東京、福島、滋賀、大分など、全国各地追っかけをしてきました。来月11月は、東京、12月は宮城、1月は鹿児島に伺う予定をしています。

この度、お手元にお渡した絵本「ちよにやちよに」を、白駒妃登美さんが出版されたことを機に、「ちよにやちよに」すなわち国歌「君が代」とロータリークラブについて自分なりに調べ、考えたことを述べさせていただきます。

私たちは、毎回例会には国旗を掲げ、毎月の第一例会では「君が代」を斉唱しています。地区の公式事業では毎回「君が代」を斉唱しており、そのことに違和感を覚える方はあまりいないでしょう。ただ、ロータリークラブの発祥は、アメリカのシカゴであり、RIという世界的に統括する組織はありますが、「日本ロータリークラブ」という組織はなく、各国家そのものを強く意識するという団体

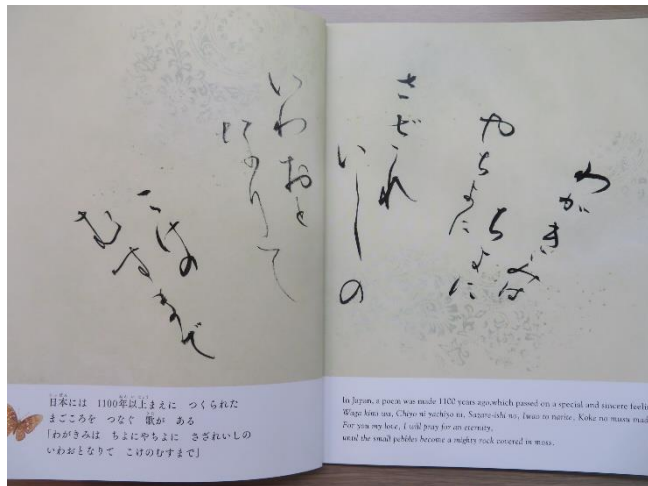
ではないと言えます。私たちが所属する第2760地区は愛知県がエリアですが、第2750地区は東京ロータリークラブはじめアメリカ(グアム、サイパン)、ミクロネシア連邦、パラオ共和国がエリアとなっています。日本と言う枠組みを超えています。第2750地区でも地区大会では「君が代」が斉唱されているようです。なぜ、当たり前のように「君が代」を斉唱するのか。まずは「君が代」本来の意味とロータリークラブが「君が代」を取り入れたいきさつ(歴史)を振り返ってみたいと思います。



「君が代」というと「天皇崇拝の軍国主義賛美の歌」と思い込んでいる方がいらっしゃると思いますが、確かに軍部によって利用された時期もありましたが、それは戦前からのわずか7、80年の期間であり、本来この歌には、1100年以上の歴史があり、また、その成り立ちからわかることは「軍国主義の歌」どころか「世界で唯一の国歌がラブソング」なのです。

平安時代前期に古今和歌集にその元歌が収められています。「わが君は 千代に八千代にさざれ石の 巖となりて苔のむすまで」となっています。(「ちよにやちよに」P9参照)「わが君」という表現は、主に女性が好意を寄せている男性に向かって言う表現で、「愛するあなたの命が、いつまでもいつまでも永く続きますように。例えて言うなら、「さざれ石が大きな岩となりそこにコケがむすまで」という相手の長生きを願う愛の歌でした。そこに自分はありません。ただひたすら相手の長寿を願う献身的なラブソングです。「天皇の御代を寿ぐ歌」と言うのは、後からつけられた意味で、元歌に込められた意味とは少し違っています。そして、なんとこの歌は「詠み人知らず」、なのです。学者や権力者が作ったのではなく、名もなき一般の人から生まれた歌なのです。その後もこの歌は人々に長く愛され、古今和歌集が編纂されてからおよそ1世紀が経った1013年頃、「わが君は」が「君が代は」と手を加えられ「和漢朗詠集」という書物に再び登場します。「君」と言うのは、文字通り「あなた」という意味で、「天皇」に固定したものではありません。むしろ国民が「天皇」に対して「君」と呼ぶのは不敬で、本来なら「大君」であり、天皇の代も「代」ではなく「御代」であるべきなのです。ただ、明治時代になって、国際間の儀礼のため「君が代」が国歌になって、「君が代」という表現のもとで「大君の代」すなわち「天皇のお治めになる御代」

と言う意味も込められるようになり、さらに戦前、戦中は、「天皇の御代を寿ぐ歌」として学校でも教えられました。



先日、南村君の会社設立50周年を記念してと言うことで、竹田恒泰さんの講演会があり、出席させていただきました。大盛況でした。おめでとうございます。一企業の周年の事業でこのような講演会を開催していただけるというのはとてもありがたく、素晴らしいことだと思います。講演の最後に竹田先生は特攻隊のことに触れられました。特攻隊として出撃された方々にとって「君が代」の「君」とは天皇陛下を通した自分たちの家族であったに違いありません。自分は特攻で早くに命を散らす、それは国にいる「家族」の命がずっと末永く続いて欲しいという願いがあったのでしょ

う。さて、ロータリークラブに話を戻しますと、ご存知の通りロータリークラブは

1905年アメリカ、シカゴで発足し、日本では1920年(大正9年)に東京ロータリークラブが発足しました。その後、日本とアメリカは対立し、遂に1941年に大東亜戦争に突入していくのですが、日本の軍部に強い影響力を持ち、協力していったのが右翼といわれる人達でした。アメリカのシカゴに本部を置き、名前も横文字のロータリークラブが、その標的になったとしても何等不思議のない社会状況がありました。当時の右翼の活動家にとって、そのような団体に圧力を加え解散に追い込むことは最高の勲章でした。彼等にとって、ロータリークラブは、「スパイ活動をしているに違いない」というこの上もない口実に使えたのです。当時の右翼は仕込み杖、仕込みステッキといって、杖の中に細身の刀を仕込み、それを抜いて脅すことで組織解体の片をつけてきました。

1933年(昭和8年)その連中が京都ロータリークラブへ押しかけたのです。

「お前たちは忠君愛国を否定しアメリカの手先になっている。アメリカに本部のある組織の会などを開きおって、まさに売国奴だ。知らず知らずの間にアメリカに日本の情報を売っている。そんなスパイの会合を認めるわけにはいかん。断固粉碎してやる」と、仕込み杖でどんと床を鳴らしました。石川芳次郎会長は少しも驚かず、諭すように言いました。「ロータリーはあなた方のいうようなものではありません。」「ではロータリーとは何

だ!」「ロータリーは地域社会の指導的職業人が集まって、例会で心を磨き、磨いた心で国家社会に尽くそうとする団体です。日本全国のロータリアンは皆どうしたら国家のため、天皇陛下のためになるか、毎週集まって話し合いをしているのです。アメリカのスパイなどとはとんでもない濡れ衣です。」石川会長の凜とした声に、右翼たちは一瞬たじろぎました。「天皇陛下の御為に会合を開いているというならば、その証を見せて貰いたい。」「よろしい。では忠君愛国の証として二つのことをしましょう。ロータリー運動と言うのは国際的な運動でありますから、例会場に国旗を掲げ国歌を斉唱する慣習は持っておりません。しかし、今日以降、例会場に国旗を掲げ国歌を斉唱することにします。これなら文句ないでしょう。」と答えました。

石川会長が言われるように、もともとロータリークラブの目的は国際活動ですから、特定の国家に忠誠を誓うという概念はないのが当然ですが、こう提案したところ、これを聞いて右翼たちは早々に立ち去ったということです。これが今日のクラブでも「日の丸」を掲げ「君が代」を斉唱するという先例をつくった事件となっています。そして1935年(昭和10年)日本橋ロータリークラブはこの事件に刺激され、より強くロータリークラブの存続を願ってロータリーソングを作り、例会で唄ったのが全国に拡がりました。「奉仕の理想」と「我等の生業」の二曲がそれです。歌詞を見ればお解かりの通り、文語調で書かれた歌詞、そして「御国に捧げん 我等の業(なりわい)」という歌を唄うのか、これで理解することができます。

これをロータリークラブが軍部や右翼に屈したと評価する方は、まずいないでしょう。ところが結局、1940年(昭和15年)にはRI脱退に追い込まれました。しかし、それでも水曜会、木曜会という和風の名称に名前を変えて、各地で例会を続けられたということです。あの状況下においても何とか存続させていこうという先達の努力は忘れてはいけません。

戦争後、今度は、アメリカの統治下となった日本は、GHQ による「日本骨抜き政策」にもかかわらず、今度は「アメリカに洗脳される事なく、日本国民である誇りを持つ」という風潮が沸き上がり、ロータリークラブの例会で、国旗を掲げ国歌「君が代」を斉唱することも継続されました。青年会議所やライオンズクラブもそれに倣い国への敬意の意志の表示として同様の形式をとったということです。

ところで視点を変えて、冒頭に少し触れましたが、本来、ロータリークラブは国境を越えて世のため人のために奉仕する団体です。よって、始めから国家意識など度外視している筈なのですが、「君が代」を斉唱するのはなぜかについてもう少し考えてみたいと思います。国歌斉唱が象徴するものは愛国心でしょう。まず愛国心とナショナリズムについての違いを確認する必要があります。愛国心もナショナリズムもともに「自国を愛する」と言う意味を持っていますが、違うのは、「愛国心」は、「自分が自国を愛するように、あなたもあなたの国を愛している」ということを認めています。ナショナリズムはそれを認めていません。それぞれが自国優先主義で相互理

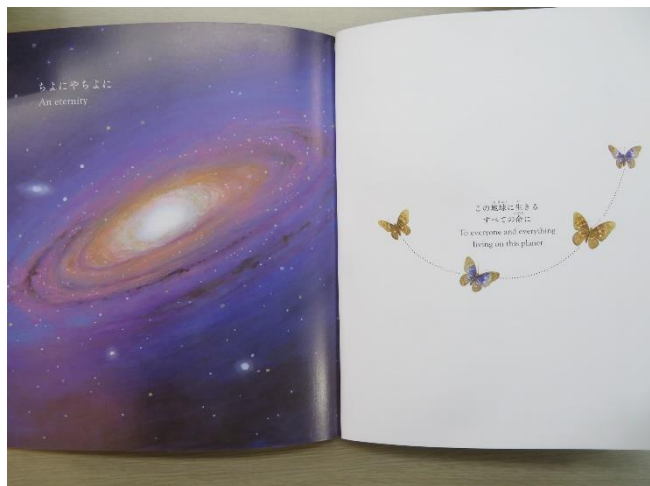
解の考えはありません。ロータリークラブは世界的な奉仕を行う組織であるがゆえに、愛国心を持って国歌を歌いお互いを尊重し合うべきだと思います。また、特に先に述べたように「君が代」の「君」の意味は、文字通り「あなた」であり、日本人にこだわるものでもなく、関係する全ての「世界中のあなた」、さらに言えば「人」である必要でもなく、想像力を膨らませれば、虫、動物、草木、山や海や地球、宇宙まで対象を広げること可能です。大自然含めあらゆるものが長く続きますようにと言う、世界的な祈りであると思います。それゆえ、ロータリークラブの例会にふさわしい歌であり、日本人として大切な歌なのです。

現在、日本はやっと戦後の自虐的価値観から脱却しつつありますが、国民の、それも若い人の自己肯定感の低さは心配です。他国と比較して、自国の優位性をもとに自信をつけさせるのではなく、「君が代」にあるように古来から日本人が持っている日本人らしさ、他者への愛、思いやり、志と言ったものを見つめ直して気づかせていくことも私たちの責任ではないでしょうか？

若輩者が、またロータリークラブにおいて、たいした大きな貢献もしていない者が、わかったようなことを申し上げて、大変恐縮しておりますが、せっかくいただいた時間ですので、私自身の「君が代」への思い、「ロータリークラブ」の思いを述べさせていただきます。

お手元にお渡ししています「ちよにやちよに」の絵本を是非ご覧いただき、ご家族、社員の方々、生徒さん、患者さん、クライアントの皆さんにもお勧めいただければありがたいです。

現在、『「ちよにやちよに」紡ぎプロジェクト』を通して、賛同者の方々によって、岐阜県下全域、東京都江戸川区、三重県東員町の小中学校他へこの絵本が寄贈されているとのことです。また、全国有志のボランティアグループの寄付によってさらに広めておられます。



先日、地区社会奉仕委員会では籠橋ガバナーより、愛知県図書館「あいち BOOK サポーター」(本の寄贈や本を購入するための寄付)についての打診があり、委員会としてどのように取り組んでいくか検討中です。また、地元でも、来春、布袋駅前に江南市立図書館がオープンします。それらを含め、私自身もこの「ちよにやちよに」

が少しでも多くの方に読んでいただけるよう協力して参りたいと思っております。

そして、改めて、国歌「君が代」の本当の意味、価値を広めていき、日本人としての誇りを持って「世界に良いことをしよう」について少しでも寄与できるよう皆様方と共に進んで参りたいと思います。本日は、ありがとうございました。

点 鐘

会長 富永 典夫君

#### 本日の食事



#### 芸術鑑賞例会

10月22日(土)、岩倉ロータリークラブの芸術鑑賞例会が、岩倉市内のダールフルットコーヒーローズにて開催され、当クラブからは、昼の部、夜の部合わせて、14名(会員及びそのご家族を含む)が参加しました。

松本恵子氏の繊細な絵画が飾られた会場で、チェコの「ペトロフ」ピアノを使用した佐藤卓史氏の情熱的な演奏を聴き、芸術の秋を堪能致しました。





ROTARY 2760  
アプリダウンロードはこちら

写真等がございましたら会報までお知らせください

(担当 尾関 育良・横山 史明)

#### マスターズ会報告

10月23日(日)、第62回(本年度第1回)マスターズ会が、10名参加のもと、名古屋ヒルズゴルフ倶楽部にて行われました。

当日は、素晴らしいゴルフ日和でしたが、ゴルフ場が満員で、ハーフ3時間という長丁場になりました。

今大会は、前回見事にホールインワンを達成した森弘好君の記念コンペであり、森君から豪華な賞品をご準備いただきました。

前回ホールインワンを達成した勢いそのままに、森弘好君が、長い長い戦いを制し、ベストグロス(91)で優勝と、完全勝利でした。

おめでとうございます。



#### 会報掲示板



**My ROTARYの登録はこちら**

※初めての方は  
アカウントを作成してください。  
※アカウントがある方は  
ログインしてご覧ください。